

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 NPO 法人宇都宮市国際交流協会

1. 事業名称:

在住成人外国人及び外国籍小中学児童生徒に対する日本語支援事業

2. 事業の目的:

- 1) 活動中の日本語支援ボランティアの教える能力向上。
- 2) 在住成人外国人に対する日本語習得機会(日本語教室)の増量。
- 3) 外国籍を有する児童生徒に対する日本語支援。

3. 事業内容の概要:

- 1) 文化庁推奨教材「教材例集」を活用し、日本語指導法「シーン別会話主体指導法」の新規修得。
- 2) 日本語教室の新設と増設及び既存教室の充実。
- 3) 児童生徒に対する日本語支援対象校の拡大。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年7月4日 (水) 14:00~17:00	3時間	宇都宮市国際交流プラザ懇話室	鈴木律子、山口由紀子、成原文子、橋本正志、川見和代、村田 孝。	(1) 採択迄の経過報告。 (2) 事業内容の変更承認。 (3) 人材養成研修日程変更と会場確保。 (4) 人材研修募集要項 (5) 業務別実行委員確認。	(1) 文化庁募集要項及び採択の遅れによる当初事業開始時期変更承認。(2) 採択条件の教材作成を追加し教材例集の宇都宮版編集作成決定。(3) 当初7月7日開始8回講座を7月21日開始10回講座に変更。会場は市総合福祉センターの3教室を予約。(4) 受講者募集方法と案内先およびメール案内先決定(7/5発送)。(5) 今後の運営委員会スケジュール調整。
2	平成24年7月14日 (土) 10:00~13:00	3時間	宇都宮市国際交流協会サロン	金田智子(学習院大学教授)、山口由紀子、成原文子、橋本正志、川見和代、村田 孝。	(1) 人材養成研修要領検討確定。(2) 研修案内状の事後承認と研修参加者の確認。(3) 採択事業経費確認と承認。	(1) ①チーフ研修講師金田学習院大学教授出席の下、研修カリキュラム・担当講師名・講師補助者を確定。②担当講師の都合にて研修日程急遽変更。③県外講師は4名にて確定。(2) 受講締切を7/14から7/19変更事後承認。募集人員は30名迄。(3) 教材作成が追加されたが、経費増額は無く採択金額内で運用。
3	平成24年7月18日 (水) 14:30~17:00	2時間半	宇都宮市国際交流プラザ懇話室	鈴木律子、山口由紀子、成原文子、橋本正志、川見和代、村田 孝。	(1) 研修受講者確定。 (2) 研修準備状況確認。 (3) 研修教材作成確認。 (4) 教材作成事業・日本語教室増設打合せ。	(1) 受講者26名。(2) 受講者名簿・出欠表作成、パソコン・プロジェクター手配。(3) 教材例集40部作成。(4) 教材例集宇都宮版作成基本方針(添付使用資料、写真、イラスト等の差換え)。日本語教室増設地区の検討(宇都宮南地区)
4	平成25年2月9日 (土) 16:00~19:00	3時間	宇都宮市国際交流協会サロン	鈴木律子、成原文子、橋本正志、川見和代、斉藤 緑、村田 孝。	(1) 教材例集宇都宮版編集打合せ。(2) 宇都宮版活用計画・勉強会計画。(3) 新設南地区日本語教室状況把握。(4) 次年度事業計画検討。	(1) 教材例集宇都宮版最終編集会議、完成日確認。(2) ①協会主催の研修会勉強会開催計画、②H25年度既存日本語教室教材使用計画、③H25年度ボランティア養成講座成人向け教材使用。(3) 少人数でも継続開催(学習者再募集、支援者増員)。(4) 3月日本語委員会チーフ会議にて審議・検討する。

【会議風景写真】



5. 日本語教室の設置・運営

- (1) 講座名称 外国人のための日本語教室
- (2) 目的・目標 文型主体の指導法による日常生活日本語習得。
- (3) 対象者： 外国籍を有する生活者としての外国人。
- (4) 開催時間数(回数) 467 時間 (全 220 回)
- (5) 使用した教材・リソース： みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ、日本語中級J301他。
- (6) 受講者の総数 135人
(出身・国籍別内訳 中国 33 人、パキスタン 5 人、韓国 8 人、アメリカ 7 人、フィリピン 14 人、イギリス 2 人、ペルー 6 人、ブラジル 4 人、タイ 7 人、インドネシア 4 人、台湾 2 人、メキシコ 2 人、その他 41 人)
- (7) 受講者の募集方法
 - ①宇都宮市広報： 毎月1日発行都度掲載。
 - ②宇都宮市国際交流協会ホームページ： 活動紹介・日本語欄に常時案内掲載
 - ③栃木県および宇都宮市交流協会事務局入口掲示板： 常時案内パンフレット提示。

(8) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	支援者数	補助者	備考
28	平成24年7月7日 ～H25年2月23日 (土) 13:30～15:30	56時間	国際交流プラザ	26人	中国6、パキスタン3、 韓国2、米国2、フィリ ピン2、英国・ペルー・ ブラジル・カナダ・トル コ・ドイツ・インドネシ ア・イラン各1、その他 3。	日本語初級から中級 までの支援	(1)入門コース…ひらがな・カタカナ、自己紹 介・挨拶、序数学習。(2)Aコース…みんなの日 本語初級Ⅰ1課～6課。(3)Bコース…同Ⅰ7課 ～25課。(4)Cコース…同Ⅱ26課～50課。(5) 中級コース…中級教材による読解・会話・聴解・ 作文習得。	1名	成原 文子	11名	川見和代、郷間利 子、鈴木律子、滝 口静雄、外村佳代 子、植木進、山野 晶敏、コハツホセ、 水沼とみ子、山中 真子、廣瀬由佳、	みんなの日本語
29	平成24年7月7日 ～H25年2月23日 (土) 18:30～20:30	58時間	北生涯 学習センター	7人	中国3、ブラジル1、ペ ルー1、その他2。	日本語初級Ⅰから初 級Ⅱまでの支援	(1)入門コース…ひらがな・カタカナ、自己紹 介・挨拶、序数学習。(2)Aコース…みんなの日 本語初級Ⅰ1課～10課。(3)Bコース…同Ⅰ11 課～25課。(4)Cコース…同Ⅱ26課～35課。 (5)Dコース…同Ⅱ36課～50課。	1名	斉藤 緑	8名	岸千賀子、竹江勝 子、鈴木律子、羽 石和夫、吉田修、 吉原之代、井澤慈 子、石原晶子、	みんなの日本語
30	平成24年7月5日 ～H25年2月28日 (木) 18:30～20:30	60時間	市総合 福祉センター	10人	ネパール(2人)、中国 (1人)カナダ(1人)、豪 国(1人)、米国(2人)、 ペルー(3人)、	日本語入門から初級 の支援	(1)入門コース…ひらがな・カタカナ、自己紹 介・挨拶、序数学習。(2)Aコース…みんなの日 本語初級Ⅰ1課～6課。(3)Bコース…同Ⅰ7課 ～25課。(4)Cコース…同Ⅱ26課～50課。(5) 漢字コース…中学漢字レベル習得。	1名	北村 康夫	8名	山口由紀子、村田 孝、吉田勉、植木 進、阿部まつ子、 吉原之代、櫻井一 郎、高山典子、	みんなの日本語
31	平成24年7月4日 ～H25年2月27日 (水) 10:00～12:00	62時間	国際交流プラザ	36人	中国7、フィリピン5、タ イ3、韓国3、パキスタ ン2、ブラジル2、イン ドネシア2、ソナタ12。	日本語初級から中級 までの支援	(1)入門コース…ひらがな・カタカナ、自己紹 介・挨拶、序数学習。(2)Aコース…みんなの日 本語初級Ⅰ1課～10課。(3)Bコース…同Ⅰ11 課～25課。(4)Cコース…同Ⅱ26課～50課。 (5)中級コース…中級教材による読解・作文・会 話・聴解習得。	1名	小山田幸子	11名	黒田恭子、篠崎敬 子、田中美和子、 川見和代、下村友 子、小野義信、井 上純子、小沼亮 子、志村香苗、石 原武子、大幡道	みんなの日本語
31	平成24年7月4日 ～H25年2月27日 (水) 13:30～15:30	62時間	国際交流プラザ	27人	中国8、フィリピン4、 アメリカ2、タイ2、ポー ランド1、韓国1、ソナ タ9。	日本語初級から中級 までの支援	(1)入門コース…ひらがな・カタカナ、自己紹 介・挨拶、序数学習。(2)Aコース…みんなの日 本語初級Ⅰ1課～6課。(3)Bコース…同Ⅰ7課 ～25課。(4)Cコース…同Ⅱ26課～50課。(5) 漢字コース…中学漢字レベル習得。	1名	石川 孝子	10名	大久保恭子、中坪 良子、オーガス初 恵、武田康夫、山 崎邦夫、宮沢佳 織、黒田恭子、井 上純子、志村香 苗、大幡道夫、	みんなの日本語
30	平成24年7月10日 ～H25年2月26日 (火) 13:30～15:30	60時間	国際交流プラザ	6人	中国2、メキシコ1、台 湾1、フィリピン1、韓 国1。	日本語上級レベル支 援	(1)入門コース…ひらがな・カタカナ、自己紹 介・挨拶、序数学習。(2)Aコース…みんなの日 本語初級Ⅰ1課～10課。(3)Bコース…同Ⅰ11 課～25課。(4)Cコース…同Ⅱ26課～35課。 (5)中級コース…同Ⅱ36課～50課からの聴解・ 読解・会話習得。	1名	鈴木 律子	1名	成原 文子	
27	平成24年7月2日 ～H25年2月25日 (月) 13:30～16:30	81時間	国際交流プラザ	19人	中国(6人)、ポーランド (1人)、英国(1人)、台 湾(1人)、メキシコ(1 人)、韓国(1人)、タイ (2人)、米国(1人)、 比国(1人)、不明(4 人)	レベル混在のフリー な会話・読解・作文・ 聴解による日本語習 得。	(1)フリートーキング会話。(2)テーマ別読解。 (3)日本文化習得。(4)生活用語の習得。	1名	臼井 佳子	8名	大幡道夫、小野美 江子、石原武子、 志村香苗、山崎邦 夫、高山恵、郷間 利子、	みんなの日本語 各講師独自選択教 材
14	平成24年11月6日 ～H25年2月26日 (火) 18:30～20:30	28時間	南生涯 学習センター	4人	比(2人)、インドネシア (1人)、ペルー(1 人)、	日本語初級の支援	(1)日本語初級…対話型支援による生活シー ン別会話・読解の習得。(2)漢字・学習用語支 援。	1名	橋本 正志	2名	中田鑑子、姜燕、	みんなの日本語、 教材例集、

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

【教室風景写真】



水曜日午後教室		2月20日分			
クラス名	今日の授業内容・雰囲気(クラスの特徴がわかるように)			教材・副教材	
	初来校者対応				
1	・レベルチェックの為に会話と漢字学習。 * 会話レベルが高いことから明るく楽しい学習であった。			かんじだいすき(一) かんじだいすき(二)	
	基本的な日本のあいさつ				
2	・「おはよう」「おやすみ」「どうぞよろしく」「しつれいします」 ・ひらがな、カタカナ、書き順の練習 * 生活シーン別に応じたあいさつを楽しく実演。			「絵でマスター」 「にほんご基本文型」 「みんなの日本語」	
	基本動詞の学習				
3	・動詞を使っの簡単で短い文節づくりの練習。 ・現在、現在否定、過去、過去否定の学習。 * 明るい性格の女性学習者で熱心で理解も早い。			「いっぽにほんごさんぽ」 「できるにほんご」 「大地」	
	みんなの日本語 12課				
4	・形容詞を使用しての現在、過去の学習。 * 同国人学習者2人であり、打ち解けた雰囲気での学習。			「みんなの日本語」	
	みんなの日本語 32課				
5	・比較選択(ほうがいい)、推量・予測(かも、でしょう) ・自国の紹介とPRの交換。			「みんなの日本語」 初級Ⅱ	
	初中級の文法				
6	・復習と会話の中に初中級の文法を取り入れて学習。 ・自国のことわざを日本語に意識し説明練習。 * 学習者が真剣で集中力があり楽しく2時間が過ぎた。			「みんなの日本語」 中級 「日本語表現文型」 「ドリル&ドリルNo2」	

水曜日午前教室		2月13日分			
クラス名	今日の授業内容・雰囲気			教材・副教材	
1	にほんご入門指導 ・ひらがな、カタカナのリピー練習 * 初期指導につき楽しく進行。			あいうえおカード カタカナかるた ひらがなプリント	
2	日本語初期指導 ・ひらがなを書く練習。 ・簡単な文章を作る練習。 ・物語の読解。			日本の暮らし12ヶ月 学習者ノート	
3	中学卒業(16才)臨時短期指導 ・H24年12月来日に基づく日本語初期指導 ・動詞の「て」形			「ひろこさんの たのしい日本語」	
4	3ヶ月のみ滞在者の日本語支援(アメリカ人、4月帰国予定) ・漢字の初歩 ・「ない形」の学習。 * 母国でテキスト「げんき」で学習したが文法が理解できていない。			「いっぽにほんご、 さんぽ2」 「できる日本語」	
5	「みんなの日本語」8課復習、9課学習。 ・8課テスト ・9課・・・導入練習、繰返し。 * 新入校者がいたため、自己紹介による情報交換			「みんなの日本語」初級 と自主制作テスト。	
6	「みんなの日本語」9課学習。 ・好き嫌い、上手下手がわかる表現練習。 ・「から」を使用する理由表現。 * 日常の出来事を雑談形式で話し雰囲気上げる。			「みんなの日本語」初級 「書いて覚える文型練習」	
7	可能動詞を使用する会話練習。 ・動物園で何が出来るかを尋ねる練習。 ・学習者の子供が日本に来て何が出来るように 成ったかを対話する。			「みんなの日本語」初級 「できる日本語」	
8	交通機関の利用 ・電車に乗って遠くへ行くための会話練習。 ・交通用語の学習(チケット、定期券、路線図等) ・伝言表現/条件表現における文法学習。 * 対話ができるレベルであり楽しくリラックスできるクラス。			「いつかどこかで」(初級) 文法問題集、語彙集、レアリア等 の複数混合自作教材。	
9	中学卒業(16才)学習者の高校入試対策 ・漢字の重点学習・・・母語との意味・読み方違い			常用漢字の級別学習	

(10) 目標の達成状況・成果

①宇都宮市南地区に新規日本語教室開設。

・火曜夜間校とし働く外国人を対象に開設。当初はPRが行き届かず学習者が少なかったが、徐々に増えつつある。

②既存日本語教室のクラス数28から32に増加。

・あらゆるレベルの学習者が参加するようになり、クラス数を増やした。24年度ボランティア養成講座修了者の参画により、更にクラス数を増やす方針。

③学習者数の増加。

・出入りが激しいものの、安定学習者数が増量傾向にあり、ここ3年間で64名⇒72名⇒118名と増加した。

(11) 改善点について

①学習者の継続受講をどのように図るか。・・・年間カリキュラムから半年カリキュラムへの変更を検討中。(教材の「教材例集」への変更により可能)

②中途参加の入門レベル学習者対応方法。・・・現状学習者レベルまで引上げる為の期間に対応させる臨時支援者が直ぐ確保できない。(文型主体支援から「教材例集」使用による対話型支援に変更することでの対応を検討。)

③下記今年度の「人材の養成・研修」にて“学習のポートフォリオ”を学びましたので、25年度より随時取り入れてまいります。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称：平成24年度日本語ボランティア支援者能力向上研修会

(2) 目的・目標：①活動中ボランティア支援者の能力向上。

②生活シーン別会話主体支援法の修得。

(3) 対象者：栃木県内で在住外国人に対しボランティアにて日本語支援している人。

(4) 開催時間数(回数) 22.5 時間 (全 9 回)

(5) 使用した教材・リソース：文化庁標準的なカリキュラム案 教材例集。

(6) 受講者の総数 26人

(出身・国籍別内訳：日本 25人、中国 1人)

(7) 受講者の募集方法

①宇都宮市国際交流協会ホームページ。

②栃木県内近隣市国際交流協会宛案内パンフ郵送。

③宇都宮市国際交流協会日本語委員会所属メール所持者93名に案内メール配信。

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者	備考
1	平成24年7月21日 10:00～12:30	2時間半	市総合福祉センター	25人	中国(1人)、日本(24人)	1、本コースの目的と流れ。2、標準的なカリキュラムと教材例集	・日本語指導/支援のきっかけ、対象、教材、現在の課題についての質問回答。・本コースの目標・計画について。・「標準的なカリキュラム案」開発に至る背景とその内容及びCan-doの考え方。	1名	金田 智子	2名	村田 孝、川見和代	
2	平成24年7月28日 10:00～12:30	2時間半	市総合福祉センター	22人	中国(1人)、日本(21人)	「文型積上げ式」か「場面中心・活動中心」か	・「みんなの日本語」と「教材例集」の比較。・文型積上げ方式と「場面、活動中心」の特徴と各々の課題。・ガイドブックにある活動方法の例への関連付け。	1名	金田 智子	2名	鈴木律子、斉藤 緑	
3	平成24年8月4日 10:00～12:30	2時間半	市総合福祉センター	19人	日本(19人)	教材例集の扱い方 1:対話型活動について	・地域の日本語教室あるいは「生活者としての外国人」に対する日本語指導/学習支援において「対話型活動」はどういった意義をもつのか、その可能性は何か具体的方法は、課題は何か等。	1名	吉田 聖子	2名	成原文子、山口由紀子	
4	平成24年8月25日 10:00～12:30	2時間半	市総合福祉センター	21人	日本(21人)	教材例集の扱い方 2:	・一つのユニットについて目的、構成、各部分の意図、「教材」の位置付け、活動方法、展開の可能性等。	1名	矢部 まゆみ	2名	村田 孝、橋本正志	
5	平成24年9月1日 10:00～12:30	2時間半	市総合福祉センター	22人	日本(22人)	「学習のポートフォリオ」はなぜ必要か-ポートフォリオ活用方法-	・「教材例集」と「学習のポートフォリオ」は車の両輪であってどちらが欠けても学習の成果は挙げない。	1名	川端 一博	2名	成原文子、川見和代	
6	平成24年9月9日 10:00～12:30	2時間半	市総合福祉センター	21人	日本(21人)	教材例集の扱い方3	・一つのユニットについて目的、構成、各部分の意図、「教材」の位置付け、活動方法、展開の可能性等。	1名	矢部 まゆみ	2名	村田 孝、斉藤 緑	
7	平成24年9月15日 10:00～12:30	2時間半	市総合福祉センター	22人	中国(1人)、日本(21人)	支援活動の組み立て	・教材例集と「能力の記述」文を活用し、どのように活動を組立てたらよいかを具体的に考える。	1名	川端 一博	2名	成原文子、橋本正志	
8	平成24年9月29日 10:00～12:30	2時間半	市総合福祉センター	19人	日本(19人)	1、実習・活動の振り返り2、教材例集宇都宮版作成に向けて	・支援活動例の実績とその評価。・教師用ポートフォリオ等、日常的に用いることのできる評価ツール。・なぜ「教材例集宇都宮版」を作るのかについて。	1名	金田 智子	2名	鈴木律子、成原文子	
9	平成24年10月13日 10:00～12:30	2時間半	市総合福祉センター	14人	日本(14人)	教材例集宇都宮版作成アイデア検討議	・教材例集を5分野に分け、5グループで、担当分野の宇都宮版案を提案、編集委員会に提出。	1名	村田 孝	2名	鈴木律子、山口由紀子	

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

【人材養成研修会風景写真】



開催日	参加人数					
		講師名	学習院大学文学部日本語日本文学科 金田 智子教授			
		研修テーマ	「文型積み上げ式」か「場面中心・活動中心」か			
			1、「文型積み上げ式」とは何か・・・日本語学的な視点から文型を単純なものから複雑なものへと並べその順番通りに教えていく考え方。			
			2、その長所と短所のグループ討議。両者4項目位にまとめ上げた。			
			3、「みんなの日本語」を使ってあなたは何を教えていますか？質問形式。講師が具体的な課を取上げ、学習者との質問と応答。			
7月28日(土)	22人	研修内容詳細	4、「文型積み上げ式」の課題討議。			
10:00～12:30			・結論としてコミュニケーション能力が身に付きにくい。			
			5、「場面中心」「活動中心」とはどんなことか。			
			場面中心・・・様々な生活を場面ごとに捉え、必要となる言葉を教え学ぼうとする考え方。			
			活動中心・・・コミュニケーションを伴う活動を実際に行うことを通じて活動遂行に必要な言葉を教え学ぼうとする考え方。			
			6、「教材例集」は文型や語彙をどう扱っているか検索。			
			活動2、活動3の目的を達成するために語彙や文型を学ぶ。			
			7、様々な学習活動と練習方法の抽出。			
			・シュミレーション、インタビュー、アンケート、ランキング、フोटレンジ、シャドーイング、ジグソー、スキニング等の方法を学ぶ。			
		講師名	横浜国立大学留学生センター 矢部 まゆみ非常勤講師			
		研修テーマ	教材例集の扱い方 学習者の状況、ニーズを捉えて教室活動を考える			
			1、現状の支援者実態と課題の列挙。及びその対応法。			
			学習者各々が自己の実態と課題を発表し、講師が対応法を助言。			
			2、様々な教授法の捉え方と現場への合わせ方。			
			・「文型積み上げ＋活動」「活動＋文法整理」など様々な使い分け。			
			3、文化庁「標準的なカリキュラム案」「教材例集」の考え方を学ぶ。			
			・対象となる学習者の状況、生活課題、ニーズを捉えることから出発する。			
			・学習者の状況にあわせて行動・体験中心の教室活動を設計する。			
			・実際の教材は地域の実情・学習者の状況に合わせて、それぞれの現場で作成する。			
			4、学習者の状況、生活課題の把握法			
			・「標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例」の使い方。			
			・5グループ毎に課題シートを使用して実習。			
			5、教室活動について検討。			
			・「できるようになりたいこと」のうち優先度の高いものを取上げる。			
			6、「教材例集」のユニットの構成・目的・各部分の意図、活動の方法を実例を踏まえ実習。			
		講師名	日本国際教育支援協会日本語教育普及課 川端 一博作題主幹			
		研修テーマ	学習のポートフォリオ活用法			
			1、評価とは何か、評価の種類を討議。			
			2、日本語学習における評価の位置付けを学ぶ。			
			・評価コースのデザイン(シラバスデザイン・カリキュラムデザイン)の手法を研修。			
			3、評価者と評価時期			
			・支援者のみが評価するのではなく、学習者も自己評価する。			
			・評価の3時期・・・支援開始時、支援中、支援終了時。			
			4、日本語学習ポートフォリオの意義と手法を学ぶ。			
			・評価法の6原則と3つの構成			
			5、ロールプレイタスクによる評価の実例と実習。			
			・対面販売でシャツ(ブラウス・カットシャツ)を購入する実習。			
			6、生活上の行為達成を評価する記録表の作成法を研究。			
			・提案フォーマットによる実習。			
			7、日本語教室の記録帳と各回毎の学習記録の作成法学習。			
			・簡単フォーマットの紹介。			
			8、社会生活での実体験記録の作成手法。			
9月1日(土)	22人	研修内容詳細				
10:00～12:30						

(10) 目標の達成状況・成果 ①研修参加者17名にアンケート依頼。

文化庁日本語ボランティア支援者研修会参加アンケート及び感想集計

研修全般について

どれかに○をつける)

1、今後、文型主体の支援から、対話主体の支援にかえていきますか？（はい、いいえ、わからない）

はい	7	41.20%	無回答をわからないとすれば、 60%の人がまだ迷っていることを 表していると判断される。
いいえ	0	—	
わからない	6	35.30%	
無回答	4	23.50%	

2、4人よりも、1人の講師に「教材例集」をもっと深く教えて欲しかった？（はい、いいえ、どちらとも言えない）

はい	5	29.40%	意見は二分している。 一人当たりの時間が短く 講義内容を充分伝えきれなかった ことに要因があったと判断される。
いいえ	4	23.50%	
どちらとも言えない	8	47.10%	
無回答	0	—	

3、一回当たり2時間は短い、3時間以上でも良い？（2時間で良い、3時間が良い、3時間以上でも参加できる）

2時間で良い	11	64.70%	受講者にとっては2時間が集中できる 適正な時間帯と思われる。 内容を充実させるには全体の回数を 増やした方が良かったかもと反省。
3時間が良い	3	17.60%	
3時間以上でも参加	2	11.80%	
無回答	1	5.90%	

4、「教材例集 宇都宮版」は使う価値ありますか？（とてもある、ある、わからない、ない、ほとんどない）

とてもある	4	23.50%	当然の結果と判断。 (宇都宮版があるに越したことは無い)
ある	10	58.80%	
わからない	2	11.80%	
ない	0	—	
ほとんどない	0	—	
無回答	1	5.90%	

5、学習者と支援者の相互評価(ポートフォリオ)を実行できますか？(やる、トライ・チャレンジする、解らない、無理)

やる	1	5.90%	日本語学校の先生でもない ボランティア支援者にとっては 研修のような評価法はそこまで やれないとする感触。全体的な 総合判断で習得の可否を判断している
トライする	2	11.80%	
わからない	9	52.90%	
無理	2	11.80%	
無回答	3	17.60%	

6、来年度ボランティア養成講座で「教材例集」のよる支援法がテーマになった時、参加しますか？						
					(参加する、 できたら参加する、参加しない、わからない)	
	参加する	3	17.60%	もう一度、更に理解するために		
	できたら参加	8	47.10%	参加の意思を表明しているものと		
	参加しない	2	11.80%	判断される。		
	わからない	4	23.50%	(今回の研修だけでは理解し得ていない為)		
7、全般的な感想						
* 毎回2時間かなりのスピードで授業が進んで行き付いて行くのが大変だった。						
* 難しく考えずに出来ることから少しずつ取り入れてボランティアを続けていきたい。						
* 今回の研修は難しかったが、日本語支援を見直す良いきっかけとなり受講して良かった。						
* 教材例集を活用しての模擬授業をたくさん受講できると良かった。						
* いろいろな先生から多岐に亘り教わり、とても勉強になったが、少し時間不足は歪めない。						
* 教材例集はあまりに生活面が強調されて、日本語勉強目的の人には物足りないかもと感じた。						
* あっという間に終了したという感じで最先端の教授法をマスターするにはゆとりがなかったように思う。						
* 先生方のエネルギッシュな指導法に敬服しました。						
* 「みんなの日本語」でもよく話せるようになった生徒も多くいるので、戸惑いもあるが、教材例集の						
楽しそうな会話方式も取り入れていきたい。						
* 参加して良かった。活動の中で色々取り入れて行きたい。宇都宮版が楽しみ。						
* 当初違和感を持ったが、新しい日本語支援の方向性を多方面より知ることができ興味深かった。						
* やや研修の内容に系統性が欠けていたように思え、理解しづらいところが多々あった。						
* 生活場面中心の言語支援は組立に大きな工夫が必要で難しいが、実践の価値は大きいと思う。						
* 外国人の立場で場面に適した支援をするアイディアは興味深く有意義だと思う。						
* 教材例集で教えるまえに、文型文法の知識、地域情勢の把握が必要で、プレッシャーを感じた。						
* 日本語を教えるだけでなく、文化的社会的事項も指導すると言うこの講座で新しい流れを感じた。						
* 1講師当りの回数をもっと増やして欲しかった。不安が大きいが対話主体の支援に変えて行きたい。						
* 文型型の支援のみでは学習者には実践的でないので、対話型を徐々に取り入れて行きたい。						
* すばらしい人達と交えて学び、勉強になり本当に良かった。						
* 講師も時間が足りなかったようで早口で慌ただしく内容が掴み切れなかった。						
* 模擬授業は前回欠席メンバーが多いと訳がわからず授業に臨むのは少し難しい。						
* ボランティア初心者には難しすぎる内容で、良く理解できなかった。						
* 教材例集だけの支援は困難と感じた。学習者にレベルを考えると戸惑いを感じる。						
* 支援者側に文型と対話と両方をこなす高い技量が必要になると思う。						
* ボランティア経験の浅い者には、解らないところが多かったが、質の高い授業を受けられ良かった。						

(11) 改善点について

- ①9回開催で講師を5名とした為、1講師当りの難しい取組みテーマを十分に説明仕切れなかった。今後は講師を3名以内にし1講師当り3回以上とする。
- ②1回当たり2時間半ではテーマにつき深く追求できなかったため、今後は休憩を挟み5時間を基準とし質疑応答時間を充分取るようにする。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム教材例集宇都宮版。同 別冊「指導ノートと生活上の行為事例及び 能力記述」
- (2) 対象 日本語支援ボランティア
- (3) 目的・目標
 - ①25年度以降の日本語支援ボランティア養成講座の成人向け日本語指導の新教材として作成する。
 - ②25年度以降の協会主催日本語教室初級クラスの教材を当教材に順次切替えることを目標とする。
- (4) 構成
 - ①文化庁教材例集の指導ノート部と生活上の行為事例および同能力記述部を抜き出し別冊として支援者用の指導書とする。
 - ②上記以外の本文を1冊にまとめ学習者用教材(本冊)とする。
 - ③上記本冊にて、写真・イラスト・添付資料を可能な限り宇都宮地域にて使用しているものと差し替える。
- (5) 使い方
 - ①別冊支援者用指導書はボランティア養成講座受講者及び日本語教室支援者に配布。
 - ②本冊は日本語教室学習者・支援ボランティア・および養成講座受講者に配布し初級クラスの基本教材とする。
- (6) 具体的な活用例
 - ①平成25年度 日本語ボランティア養成講座 成人向けコース(年度後半)の主教材として使用予定。
 - ②平成25年度宇都宮市国際交流協会 日本語教室初級主教材として現行教材「みんなの日本語」より随時切替え。

8. 事業に対する評価について

- (1) 事業の目的
 - ①活動中の日本語支援ボランティアの教える能力向上。
 - ②在住成人外国人に対する日本語習得機会の増量。
 - ③外国籍を有する児童生徒に対する日本語支援。
- (2) 目標の達成状況・事業の成果
 - ①人材の養成研修受講者アンケート集計結果表の通り、受講者の大半が「教材例集」の使用による日本語支援に賛同、今後の支援者能力向上が期待される。
 - ②日本語教室主力支援者(チーフ)による編集委員会(5名)が作成した「教材例集 宇都宮版」は支援者用と学習者用と別冊化されていて本格使用前にて好評。
 - ③平成25年度日本語支援ボランティア養成講座の教材として使用決定。及び日本語教室初級クラスの基本教材として採用予定。

- (3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について
上記(2)の通り人材養成研修にて使用。及び25年度以降の日本語教室・ボランティア養成講座にて「教材例集宇都宮版」を教材として活用予定。
- (4) 地域の関係者との連携による効果, 成果 等
教材例集宇都宮版(本冊・別冊)3月完成、4月以降使用につき今のところ特に連携なし。(近隣市交流協会および協会外日本語教室に配布予定)
- (5) 今後の課題について
- ①登録ボランティアのうち実活動するボランティアが固定されつつあり、未活動ボランティアに対する参画勧誘法が見出せていない。
 - ②日本語教室の教室数を増やせば増やすほど1教室当たりの学習者を10名以上確保できなくなり、文化庁援助基準の学習者数に達せず増設の妨げとなる。
 - ③就労学習者(パート含む)が多いためか欠席率が高くなる傾向にあり、また未連絡未確定退学者のための体制、年度途中入学者の対応体制がうまくいかずボランティアローテーションが組みにくい。